全教神協広報

第一一八号
全国教育関係神職協議会
〒一五一－〇〇五三
東京都渋谷区代々木一－一－一
神社本庁内
電話　〇三－三三七九－八〇一一
FAX　〇三－三三七九－八一九九
題字　諏訪秀一氏

未来を拓く教育を目指して

全国教育関係神職協議会 会長　寶來　扶佐子

令和八年を迎えコロナという大禍も、喉元過ぎれば何とやらで、いつしか過去の苦難のように捉えられているようです。『過ぎない嵐は無い』とはよく謂われますが、昨今の世界情勢は勿論自然界規模でのこの地球上に於いて、嵐だらけと思えます。ウクライナ情勢は、混沌のまま月日を重ね、中央アジアでは、人権弾圧と民族差別が隠蔽されたまま世界中から目隠しされたつもりで箝口令です。異常気象は各地で起こり、日本に於いても美しい四季の移ろいが有るべきなのに、異常な暑さが続き、蝉時雨や、秋の虫の気配さえ感じることが有りませんでした。大規模な山火事や洪水は世界中に不安と危機感を増長させます。

国内に於いて昨年（令和七年）は、大阪の地で関西万博が開催され、開催前の杞憂を吹き飛ばす、未曾有の入場者を国内外から迎えました。又令和十五年の第六十三回伊勢神宮式年遷宮に向けてのスタートとなる諸祭が始まりました。秋には、なんと日本憲政史上初の女性総理の誕生がありました。女性であると言うよりぶれないトップが生まれた期待が大きかったのではと思います。歴代のトップが踏み込めなかった戦後問題の縺れを正すべき毅然とした態度が期待され、正にそれに応えるべく進まれることを望んでいます。

『戦後八十年、昭和百年』とのフレーズが色んな所に現れ、各地でも慰霊祭やイベントが開催されました。私共の地元大阪では、護国神社において、神仏合同による大慰霊祭が齋行されました。敗戦から七年ほど、占領下の日本は屈辱の中、教育現場、歴史観、倫理道徳や家族観などが歪められてしまいました。教科書や歴史展では、自虐史観たっぷりの説明が付けられ、子どもたちは傷つきました。私達日本人の、父祖や英霊達がいかに非道な戦争を起こし、他国を蹂躙したかと喧伝しました。この意識の中核となったのは、ＧＨＱとやがて生まれた日教組でした。

平和教育と戦争反対は似て非なるものです。国の尊厳、個人のプライド、先祖家族への尊敬と愛情、四季に彩られる国土への思いなどは、日々の生活の中でじっくりと培われていくものです。それぞれの家庭で、そして我々全教神協の関わる教育現場で。

大東亜戦争の記憶を語れる方々もどんどん亡くなられ、英霊のご遺族も三代目や四代目となり風化していく感があります。今の日本は、一見平和に見えますが、周りに中・露・朝を始め、台湾有事や北方、尖閣諸島問題を抱えていることも事実です。全教神協の我々は、教育現場でそして各自のお宮の社頭で、ぶれること無く日本の未来を担う人々を育てる為にも、会の強化を担う新たな会員のご参加を切に願っております。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。